

## 苗穂地区

### 苗穂を語る会

昭和四十七年、札幌市に区制が施行され、苗穂地区は中央区と東区に分割されました。それ以来、人口は減少傾向にありましたが、平成七年ころから大規模な分譲マンションが建設されるようになり、五年間で約五割も増加しました。一方、新しい住民が急激に増えるにつれ、町内会活動をいかに深めるかという課題が生まれてきました。

そこで、苗穂連合町内会（大島脩会長）が中心となって、地域の課題をみんなで考える「苗穂を語る会」を企画しました。昨年二月の「苗穂の個性と魅力について」を皮切りに、毎回約四十人程度が参加しています。座談会やグループ討議などを行い、身近な問題をテーマに活発な意見交換が繰り返されています。十月には、第六回目として「苗穂のイベント」をテーマに開催され、地域行事のあり方や新しい企画など熱心な討議が二時間にも及びました。

回を重ねるごとに、住民間の交流や地域への愛着も深まり、住み良い街づくりへ向けて、みんなで取り組んでいます。



10月23日、講話をする苗穂連合町内会の小飼正樹総務部長

# 地域の未来を 住民が考える

## 山鼻・曙地区

### 山鼻新聞

平成十年、地域全体の活気を取り戻そうと、山鼻・曙地区の住民が、大学教授や市と協力して「山鼻・曙地区まちづくり委員会」を発足させました。ここから生まれたものの一つが「山鼻新聞」です。地域の情報を提供し、住民同士の触れ合いを深めようと、翌年第一号を発刊しました。



苗穂のイベントについてグループ討議する参加者

しかし、委員会には五年間の活動期限があり、今春第十二号を発行したところで、解散することになりました。

そこで、住民に親しまれている山鼻新聞を存続しようと、山鼻村振興会（小澤巧会長）が引き継ぐことになりました。現在編集員は九人。仕事を終えてから作業するため深夜に及ぶこともあるそうです。編集長の皆川徹さんは「素人ばかりなので時間がかかり、苦労も多いです。しかし、まちづくりの第一歩として、地域交流につながればと思っています」と話していました。現在発行部数は、一万五千部。戸別配布され、地域住民の生活に欠かせない情報誌になっています。区役所一階パブリックコーナーにも配布



# 住民が担う 地域活性化



されており、お越しの際はぜひご覧ください。

山鼻新聞の制作に取り組む皆川編集長(右奥)と編集委員の皆さん